

## 岩根 愛 個展 『ARMS』

- 会 期 2019年5月17日（金）～ 2019年6月15日（土）  
 ■会 場 KANA KAWANISHI PHOTOGRAPHY  
 〒106-0031 東京都港区西麻布2-7-5 ハウス西麻布 5F | TEL: 03-5843-9128  
 ■開 廊 火曜日～金曜日 13:00～20:00 / 土曜日 12:00～19:00（日・月・祝休廊）  
 ※5月25日（土）、6月1日（土）短縮営業（12:00～17:00）

### ▼オープングレセプション

5月17日（金）18:00～20:00  
 どなたさまもご自由にお立ち寄りください

### ▼トークイベント

- 石内都 × 岩根愛 「写真家として生きること」  
 ・日 時：2019年6月7日（金）19:30～20:45  
 ・場 所：KANA KAWANISHI PHOTOGRAPHY  
 ・登壇者：石内都（写真家）× 岩根愛（写真家）



from the series *ARMS* © Ai Iwane, courtesy KANA KAWANISHI PHOTOGRAPHY

KANA KAWANISHI PHOTOGRAPHYは、2019年5月17日（金）より岩根愛個展『ARMS』を開催いたします。

岩根愛は、ハワイと福島という一見結びつきの見当たらない土地に「BON DANCE（ボンダンス）」を通じた深いつながりの歴史を見出し、12年という長い年月をかけた壮大なフィールドワークを、作品集『KIPUKA』に結実させました。本展では、ここから新たに派生した「新緑」をテーマにした未発表作品〈ARMS〉を展示いたします。

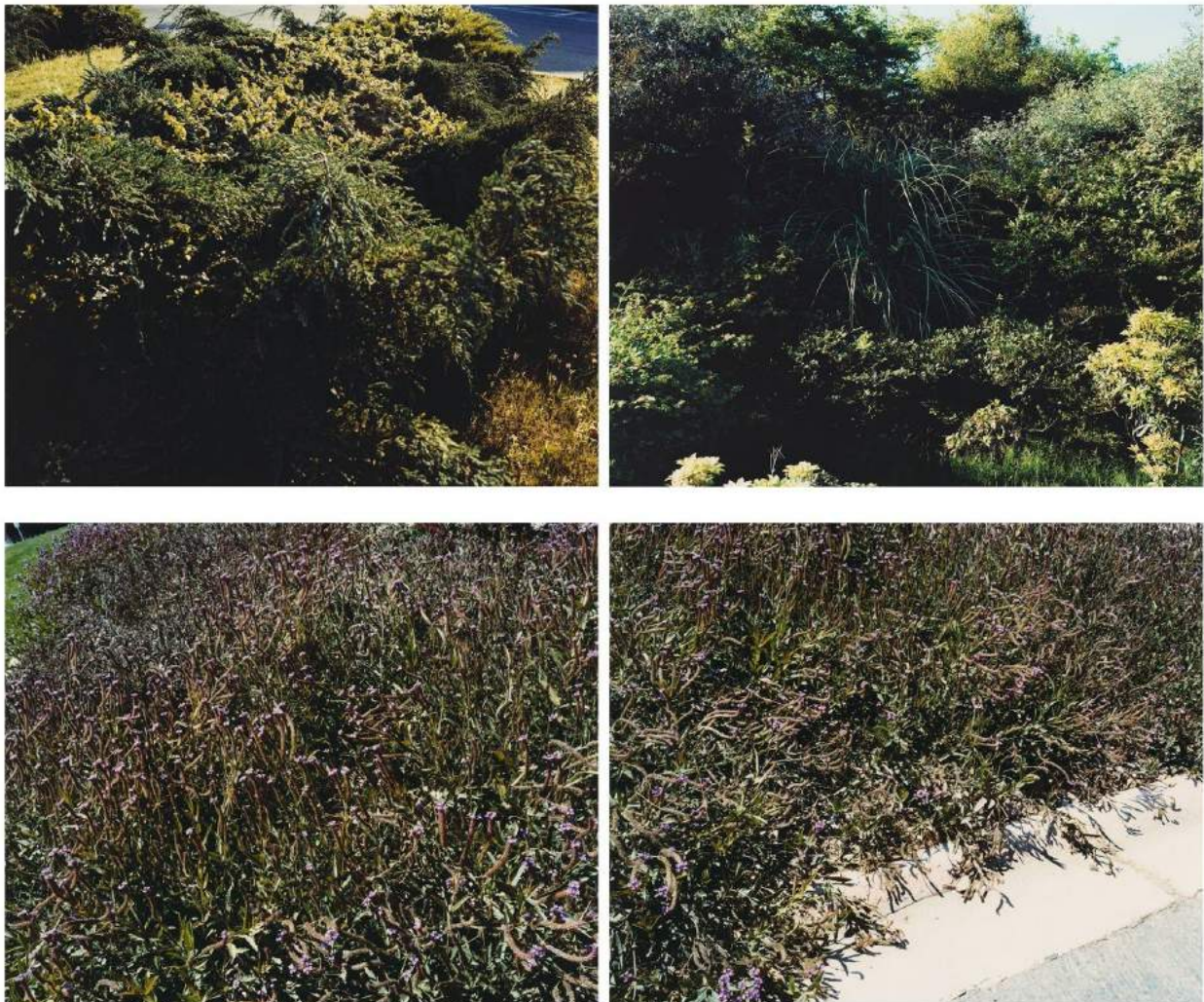
■ 画像データのご依頼等は下記までご連絡下さい ■



新緑の季節といえば、一般的に連想されるのは春と夏の間の「初夏」ですが、岩根が初めて強烈に新緑を体験したのは、冬の雨季のハワイでした。雨上がりに一面に広がる蛍光グリーンの輝きを一身に浴びた岩根は、やがて東京に戻ると、都市部の街路樹にも同じ色彩がみられることを見出します。新緑にまつわる体感をさらに探っていくと、ハワイの荒地に日系移民一世たちの墓石を発見したときの感覚にも結びつくことに気がつきました。「それらは、顔のない人が力強く腕をつき伸ばしてくるように、同じように私に向かってくるのだ」と回想します。

出て来たばかりの新しい命と、ひっそりと隠れていた命の痕跡。あるいは、大自然のなかでいきいきと命を謳歌するハワイの木々と、人工物に囲まれながらも逞しく命をつなぐ都市部の街路樹。壮大な移民文化をポスターレスに『KIPUKA』というひとつの物語にまとめあげたように、岩根は、空間や時間を超えて、正反対にもみえる事象や物事に通底するものを嗅覚で見出し、写真作品に込めていきます。

青山墓地の新緑が芽吹き梅雨を迎え始める頃に、〈ARMS〉としてハワイや東京の新緑を対比させながらひとつづきに岩根が体感した世界観を、個展形式で初めて発表する貴重な機会を、是非お見逃しなくご覧いただけましたら幸いです。



from the series *ARMS* © Ai Iwane, courtesy KANA KAWANISHI PHOTOGRAPHY

■ 画像データのご依頼等は下記までご連絡下さい ■

## アーティストステートメント

## ARMS—顔のない人

ハワイ島サウスポイントの、冬の雨季の午後だった。連雨のあとに現れた、米国最南端の太陽の光に、地中から目を覚ました草が蛍光色に輝き、遮るもののない轟音の貿易風に揺れていた。岬の先へ、一面に輝く蛍光グリーンの海の中を歩きながら、初めて見るその色が、体に染み渡っていくようだった。常夏ハワイの新緑の季節は、冬だったのだ。

やがて東京の春に、サウスポイントのグリーンが現れることに気がついた。街路樹の先端に現れるその色は、これまでの私には見えていなかったのだ。拡張した視覚が求めるまま、私はあのグリーンを探した。新緑のとき、雨が降った翌日の、正午の真上の光の中、出て来たばかりの腕が、私に伸びてきた。

私に向かってくる新緑と出会うそのとき、既視感があった。

今はジャングルとなり忘れられた、ハワイのサトウキビ農場跡地を歩き、ここだ、墓地を見つけた、とわかる、最初の墓石と出会うときである。

ハイウェイの橋桁から降りて、道なきヤブの中を進むと、ふとした気配があって、ぷつとクモの糸をちぎってしまった感触に視線を落とすと、草に埋もれた墓石がある。貯水タンクのすぐ横に、荒れ果てた草地に、溶岩流の中に、それらはふと鎮座している。刻印された文字が判別できない苔むした墓石は、人型の輪郭を纏って私を見つける。

出て来たばかりの新しい命と、ひっそりと隠れていた命の痕跡、正反対にも見えるこの二つの対象が、ふと自分に見えるとき、それらは、顔のない人が力強く腕をつき伸ばしてくるように、同じように私に向かってくるのだ。

岩根 愛

## アーティスト・プロフィール

## 岩根 愛（いわね・あい）

写真家。東京都出身。1991年単身渡米、ペトロリアハイスクールに留学。オフグリッド、自給自足の暮らしの中で学ぶ。帰国後、アシスタントを経て1996年に独立。2006年以降、ハワイにおける日系文化に注視し、2013年より福島県三春町にも拠点を構え、移民を通じたハワイと福島の間をテーマに制作を続ける。2018年、初の作品集『KIPUKA』（青幻舎）を上梓。同年、銀座・大阪ニコンサロンにて『KIPUKA』、KANZAN GALLERY（東京・馬喰町）にて『FUKUSHIMA ONDO』、KANA KAWANISHI PHOTOGRAPHY（東京・西麻布）にて『KIPUKA—Island in My Mind』を同時開催。第44回木村伊兵衛写真賞を受賞。

■ 画像データのご依頼等は下記までご連絡下さい ■

## ▼トークイベント

## 石内都 × 岩根愛 「写真家として生きること」

- ・日時： 2019年6月7日（金）19:30～20:45（19:15受付開始）
- ・場所： KANA KAWANISHI PHOTOGRAPHY  
〒106-0031 東京都港区西麻布2-7-5 ハウス西麻布 5F
- ・登壇者： 石内都（写真家）× 岩根愛（写真家）
- ・定員： 40名（先着25名着席）
- ・料金： 予約1000円／当日1500円（ワンドリンク付き）

→ 予約フォーム (<https://bit.ly/2vIXYLa>)

岩根愛個展『ARMS』の開催および書籍『キプカへの旅』（太田出版）の刊行を記念し、ゲストに石内都氏をお招きし、トークイベントを行ないます。

石内都氏は、〈絶唱、横須賀ストーリー〉で写真家としてデビューし、写真集「APARTMENT」および写真展「アパート」で第4回木村伊兵衛写真賞受賞後、母の遺品を撮影した〈Mother's〉や、原爆被爆者の遺品を撮影した〈ひろしま〉など、さまざまな主題に出会いながら写真家としての活動を重ねてきました。

対し、岩根愛は、ハワイにおける日系文化に注視し、移民を通じたハワイと福島の間連をテーマに制作を続け、12年間のフィールドワークを作品集『KIPUKA』（青幻舎）として発表。第44回木村伊兵衛写真賞を受賞しました。

今回のトークイベントでは、岩根の新作個展『ARMS』と新刊『キプカへの旅』（太田出版）を軸に、カメラを手に、その時々为主题に出会いながら作品を紡ぎだしてきた女性写真家2名が、写真家としてのキャリアを生きることについて語り合います。

## ■登壇者プロフィール

石内 都（いしうち・みやこ）

1947年群馬県桐生市生まれ。1979年に写真集『Apartment』で第4回木村伊兵衛写真賞を受賞。2005年、母親の遺品を撮影した〈Mother's〉で第51回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館代表作家に選出され、2013年に紫綬褒章、2014年にハッセルブラッド国際写真賞を受賞。2015年、J・ポール・Getty美術館（ロサンゼルス）での個展「Postwar Shadows」や、2017-2018年、横浜美術館での個展「肌理と写真」など国内外の主要美術館で回顧展が開催されている。

■ 画像データのご依頼等は下記までご連絡下さい ■